

群集と怪獣と 選ばれなかった人生の為の歌

作・立夏

登場人物

麻生ふるえ・・・・・・・・蒲田の元「五番街」の風俗嬢
コナガレ・・・・・・・・目蒲線駅員・アカゼの兄
丑寅（うしとら）・・サックス吹き・ホームレス
アカゼ・・・・・・・・電子工学院生・ふるえの恋人

「ふるえの同級生たち」

きな粉・・・・・・・・携帯ショップの店員
財布・・・・・・・・小学校の教師・ホテルの元彼
ホテル・・・・・・・・ラブホテルを経営する両親の娘・院生
虚無子・・・・・・・・フリーター

「蒲田の地下にある螺旋工場の社員たち」

六郷・・・・・・・・工場長
雪谷・・・・・・・・監査
蓮沼・・・・・・・・総務部長
チドリ・・・・・・・・アイドル・六郷の姉

■脚本中で描かれている当時の蒲田の「再開発」についての前提／物語の背景

電子工学院が校舎を増築するために西口の土地に対して立ち退き要求を行っている。主にラブホテル、「五番街」と呼ばれていた風俗店が集まる一角などがその対象となっている。蒲田キャンパス再開発計画、新校舎建設予定地には十二階建ての新校舎が建設中である。

■「タイヤ公園」「公園の怪獣」

京浜東北線蒲田〜川崎間に実在のモデルが存在している。

(脚本中のサブタイトル)

群衆の歌

正午の鐘

サマーツアー

彼女の部屋

ここから見える景色

リボンの先

あの頃のリボン

蒲田西口の皆様

不幸者の証明

ひとごろしのリボン

はたらきもの手

待ち合わせの打ち合わせ

うめる

言葉にしても

ふたりのリボン

誰にも言わない秘密

なかったこと

あったこと

真白き夜の底では月にも手が届く

選ばれた彼女の部屋

なにも届かない結果として

捨て置かれた名前

その骨をわたしのものだとして悲しむこと

群衆と怪獣と選ばれなかった人生の為の歌

【群衆の歌】

ふるえ
群衆

あの頃おれらが考えてたことは大体いつも同じだった。
蒲田駅の西口の階段下は女子高生のパンツが覗けっからティッシュ配りのバイトする
ならあそこがいいとか、講義をサボったのをどう言い訳しようか悩んだりとか、土曜
日の部活の帰り、東口のジョナで飯食ってたら結構遅くなって、ノリでコンビニで酒
買って、そーいやあの頃はまだチェックも甘くて、身内みんな童顔なのに簡単に酒は
手に入った。タイヤだらけの公園で、これまたタイヤで出来た真っ黒な大きいアスレ
チックの怪獣の足元で、円陣組んで、乾杯。

群衆、倒れる

群衆

真夜中の紺色の空の裾には街灯が遠くぼつぼつ灯ってて、もたれかかったベンチの真
裏の家からは夕食の匂い、公園の隅っこには大きなイチョウの木、その木の枝の間に
月が昇っていた。濃い黄色で出来た、十一月の大きな月だ。それを見上げたおれたち
は何となく、この景色を忘れないようにしようと思った。

六郷
ホテル

：その時俺らの中の誰かが言ったんだ。「怪獣のてっぺんまで登ってみよう」って。
おれたちはその声に導かれて怪獣の体をよじ登った、こうやって、最後に顎に手をか
けて頭の上へ。タイヤの怪獣の頭からはいろんなものが見えた。

丑寅
雪谷

一番近くには自動車教習所。
その先にボーリング場、

アカゼ

それから立ち並ぶユザワヤのビルが数え切れないくらい。

財布
蓮沼

昼間のような賑わいをなくしたそれぞれが夜に息を潜めて明日を待っている。
その先には蒲田駅周りの夜中になってもいつまでも消えないあかり。

ホテル
ふるえ

ラブホのあかり。
風俗街のあかり。

コナガレ

京浜東北線のホームのあかり。終電間近の発車ベルが鳴って：「おい、あいつ見てみ
ろ」

丑寅
コナガレ

「ほっとけ、あいつは頭がおかしいんだ」
「あれ」

群衆、手が空振る、下に向かって手を伸ばしながら

群衆

「なあ、手え出せよ。それじゃ届かねえ…。出せ…」

アカゼ

「…出しんさい。パスポート出せえゆっとるんじゃ！」

群衆

誰かがおれたちに叫んだ、パスポートのおたら通さんと。叫び声は続いた。

アカゼ

「パスポートも持っとらんのか、クズが！」

群衆 叫んだのは数人の門番の様な格好の男達で、デカイ図体で通ろうとするおれらの邪魔をしてきた。「通せ！ふざげんな、通せよ！（振り切る）くそ…（走る）」

財布 「別にパスポートなんて要らねえよ。あれこそクズだ」

蓮沼 「通らなきゃ死ぬわけでもねえし」

群衆 「あれ知ってつか、ツタヤのカードも作れねんだ、国境は越えられるけど、ビデオ一本借りれねえの…」

「すいません、これとこれとこれと、全部三泊四日をお願いします」知らない国の景色、感動的なエピソード、夜の恋人も、何処にも行かなくなつて全部手に入る。

ビーブ音

き・雪

「申し訳ございませんお客様本日返却日でございます。すべてお返し下さいませ。待ちなさい！いいですか、これは元々貴方達のものじゃあないんです…。返して下さい！」（群衆走る）

財布 ツタヤの店員が言った。

あいつらは泥棒です、捕まえてください。おれたちはひたすら逃げた。（走る）

群衆 電話…、

ふるえ 「もしもし交換手さん、

コナガレ 長距離をお願いします。

虚無子 誰でもいいから

ふるえ 繋いでくれ。

ホテル …もしもし、

蓮沼 どなたか存じませんが

アカゼ おれたちを助けてくれませんか。

丑寅 何処でもいいここじゃなけりゃ

六郷 大森でも

虚無子 大井町でもいい。

ふるえ おれらを泥棒呼ばわりしてくる奴らから逃げないといけない、でもパスポートがないとこっから出られない！助けてくれ！」

群衆 「助けてくんねか、だが手ば貸せ、

チドリ 交換手がいね！なんね、長距離、はい、ああ…！

ホテル みなして何処でもえから繋げって、

ホテル …ねのよ！

アカゼ もう繋ぐところなんて

蓮沼 一個も…。

丑寅 助けてって、

虚無子 そゆ事

ふるえ ばっかし言うもんでね！

財布 助けて欲しいのは

蓮沼 ワアのほでねが？

きな粉 おめえらはまだええ、

チドリ きちんとワアに助けてけって言えるんだから！

六郷 助けてって叫べたら

蓮沼 もう充分

虚無子 不幸者として

コナガレ 全うしてるよ！

蓮沼 でも

財布 助けてやって

ホテル 言う事すら出来ね

蓮沼 ワアは

丑寅 どせばえんだ？

群衆 ああ、みっともね、こんだワじゃね！畜生、やかましかが！

被害者 電話口の女交換手は最後に吐き捨てた。

加害者 てめの不幸せはてめでけじめば付ける。

被害者 門番が叫んだ。

アカゼ ゲートを閉じるぞ、今出んと一生出らりやせんぞ。

被害者 店員が言った。

き・雪 ビデオ泥棒、ただじゃおきませんからね。

加害者 ：おれたちの声だけが聞こえてこない。

ふるえ おれたちが考えていることは毎日同じ、何か言葉を！何でもいいから誰にでもいいから

何を言わなきゃって思ってた！でもおれたち相応しい言葉はそこらじゅう捜しても

みつからなかった…！

群衆 ない・ない・ないものだらけだ。

コナガレ この街は、蒲田は、ありすぎるのに、ありすぎて結局どれも取りこぼしてしまう街だ。

4人 (アカゼ・ホテル・財布・きな粉) 誰かが言った。

虚無子 「そういうもんでしょ」

4人 そんなもんで、誰が決めた。

コナガレ 誰かって誰だ、

ふ・コ 誰かの事なんておれたちの知ったこっちゃないよ！

4人 ：それより噴水がないんだ。今日の正午に噴水の前で待ち合わせなのに…(携帯を取り出す)電波が繋がらない、もしもし、だれか、

ぶつかった群衆、すれ違い目が合う。正午の鐘が鳴る

【正午の鐘】

財布 きな粉？久し振り。

きな粉 ホテルは一緒じゃないんだ。

財布 バカ言え。

きな粉 へえ…

財布 掛けよっか。(ホテルに電話する)もしもし、おれおれ。あ、分かれよ！ばーか！

ホテル どちらさまですか。

財布 お前おれの番号入れてないのかよ！（きな粉に）聞いてよきな粉。ホテルのやつおれの番号入れてねって。

きな粉 は、

財布 つうか…、あれじゃんか、おいクソバカ。

ホテル たあっ！

財布 よ。

ホテル 財布？

財布 なんだよ。

ホテル 財布変わんないねえ。…どうして？

財布 ハ、

ホテル だって七年も経ったんだよ。

財布 おまえ俺の番号登録しとけよ、

ホテル 消したもん。

財布 消しただあ？もっかい登録しろ、いま！0！7！0！

ホテル 7？ピッチって、財布のくせにピッチって！

財布 うっせばか、貸せ、自分でやる。

きな粉 ホテル。

ホテル きな粉！あーなんか大人っぽくなった。

きな粉 嘘だ。

財布 んだよ、でないな。

ホテル うちんで掛けないで。

きな粉 麻生さんに掛けてんの？

財布 あの人呼び出しといて連絡もないぜ。あ…教えてねえや、おれ。（舌打ち／電話を掛けないおす）つうかおれの番号教えてねえのに麻生さんのは入れてるってどういうつもり…、あれ、

一同、噴水を見る

財布 噴水がない…。

きな粉 いつからなくなつたの。

ホテル 先月くらいかなあ、

きな粉 噴水だけじゃない、この辺更地ばっかりになつてる、凄いな…

ホテル …なにがすごいの。

携帯のバイブの音

財布 繋がった。

ホテル 麻生さん？

ふるえが眠っている、アカゼ椅子、コナガレは本を読んでいる

ホテル なんだ、もうきてたんじゃん。

きな粉 え？麻生さん？こんなだったっけ！

財布 いや、

コナガレ 麻生ってふるえのこと？

財布 え？

コナガレ ……

財布 そうですけど…

コナガレ そう…。

財布 あなたは、

コナガレ おれは…。

財布 ……

コナガレ おれ、ふるえの名字を知らなかったから。ふるえ起きろ。アカゼ。

アカゼ ん…、やっべふるえさん十二時回ってんじゃん友達来ちまうよ！

ふるえ ……来たら。

コナガレ だからそれが来てる。

ホテル 麻生さん…。きたよ。

ふるえ ……ああ、ごめん。じゃあ、いこ。

アカゼ よっしゃ、ほら兄貴急げって。皆さんも！

コナガレ おれは急いでるよ。

財布 え、ねえ、麻生さん、この人たちだれ？

アカゼ はーやーくー！

きな粉 どこいくの？

ホテル わからない…。

一同ハケ／入れ替わりで丑寅入り

【サマーツアー】

蒲田の東口の広場で、丑寅がサックスを持って立っている

丑寅

次は最後の曲になりますますがその前に一言だけ。「サマーツアー蒲田行進曲」ついに今日でラストです。ちょうど二ヶ月前、ここ蒲田西口前広場を皮切りに、次はここ、次はここ、最後もここ。雨の日も風の日も毎日確実にここ蒲田西口前広場。ツアーと言いつつ全く微動だにしない、こんなツアー今まであったでしょうか。マンネリの限界に挑戦、このツアーのコンセプトです。なぜならここ蒲田がマンネリの街であるからです。しかしこのマンネリの街に遂にやってきた再開発の波。私はこの波を止めるべく、サックスを吹いています。それでは、素人サックスプレイヤーー丑寅が魂を込めて贈るソウルナンバー、聞いて下さい、安室奈美江で…キャンユーセレブレイト。

空き缶が飛んでくる

(入り)うるさいー(空き缶をなげつける)

丑寅

あたっつ！

虚無子 オリジナルやれよ！

丑寅 あだあつ！

虚無子 この空き缶が証明してるでしょ、このド下手ー！（空き缶を投げようとする）
丑寅 メタルエコネットご存じないですか。

虚無子 はあ。

丑寅 アルミは一キロ百六十円で売れる。

虚無子 あら、詳しいのですね。

丑寅 そうだね（演奏）

虚無子 やめろー！

丑寅 それではまた明日ここで会いましょう。

虚無子 今日でラストじゃないのかよ！

丑寅 そうだね（空き缶を集める）

虚無子 汚い。

丑寅 だから、財産なんだよ。

虚無子 いけない、丑寅さん今何時。

丑寅 時計はしない主義なんだ。

虚無子 十二時に電子工学院専門学校図書館前の噴水で待ち合わせだったんです。どうしよう
心配される。

丑寅 だれに。

虚無子 麻生、ふるえ。

丑寅 君は…

虚無子 あたしは虚無子。

丑寅 きよむこさん…

虚無子 ねえ聞こえる？

丑寅 ……。

虚無子 タイヤ公園の怪獣が、ないてるみたい。

丑寅 ……そう。

虚無子 噴水前は、今から行っても誰も居なからう、会議室に直行しましょう（ハケ）

丑寅 ちよつと、空き缶（ハケ）

【彼女の部屋】

ふるえの家、一同入り

ふるえ 入って、狭いけど。

きな粉 ここ…。

ふるえ あたしのマンション。

アカゼ 正確にはふるえさんとおれんちね。

ホテル アカゼさんって麻生さんの彼氏なの？

アカゼ その通り、いい質問っすね。ホテルさん十点あげちゃお。ねーふるえさーん、よしっ
て言ってくんなきゃおれ入れないよ。

ふるえ まて。
アカゼ えーそりゃないよー、ねーあにきー。
コナガレ そーね。
財布 …あはは！
ホテル なに笑ってんの。
財布 わからん、おれにもわからん！あはは！
ふるえ ねえ虚無子がない。アカゼ。
アカゼ やったー。(入ろうとする)
ふるえ よしって言っていない。虚無子がない。
アカゼ え、コンビニとかじゃん。
ふるえ あの子にはお金持たせてない。
アカゼ じゃあ友達んちとか。
ふるえ あの子には友達持たせてない。
アカゼ そか。
ふるえ 何処やった！
アカゼ おれ知らないよ！
ふるえ うるさい、お前しか居ないだろう、どこやった！
コナガレ まあまあ。
アカゼ (むせる)
コナガレ お金がなくてもどっか行くことはあるでしょ。
ふるえ ありません。
コナガレ 友達居なくても遊びにくらい行くんだ。
ふるえ わかりません。
コナガレ あんま弟いじめないで。
ふるえ …アカゼ、玄関。玄関！
アカゼ ありがとうございます！身体表現、玄関！
きな粉 なにこれ。
ホテル 靴は。
コナガレ 上置いて。
ホテル ……
コナガレ 置いて！
ホテル 彼氏なんですよね。
コナガレ …おれからも十点あげよう。
ホテル ……
コナガレ アカゼいわく、百点溜まると上海行けるらしいから頑張ってください。…パスポートは持ってますか。
ホテル いいえ。
コナガレ 珍しいね。
財布 おれも持ってないです。
きな粉 私も。
コナガレ …いつまで拗ねてんだ。
ふるえ だって。

コナガレ なんだ。

ふるえ ……。きな粉。財布。ホテル。私の高校時代の部活仲間です。で、こいつ（アカゼ）

はその電子工学院の学生。この方はコナガレさん。あいつのお兄さん。目蒲線の駅員。

財布 マジすか！わー！

コナガレ きみテツか。

財布 つり革、持ってます！

コナガレ ごめん、おれそういんじゃない。

財布 ……。

ふるえ 私がみんなを集めたのは…。

きな粉 なんなの。

ふるえ デモをやるから。

きな粉 デモ？

ふるえ そう、蒲田を、守りたいんだ。

虚無子入り／アカゼを踏んでいく

アカゼ あががが！

虚無子 すいません、遅れました！（アカゼを踏んでいく）

ふるえ 虚無子…どこいったの。

コナガレ （きな粉財布ホテルたちに）お茶、飲む？

ホテル えっと…。

きな粉 デモってなにすんの。

ふるえ アカゼ、よし。

アカゼ えっとですね、皆さんますますご健勝の事と存じますが、蒲田の再開発を止めるため

に、お手数ですがご協力いただきたい！

丑寅 （入り）虚無子さん空き缶返してよ。

きな粉 今度はだれ！？

財布 おれもう帰りたい！

虚無子 うるさい人。

アカゼ 皆さんはふるえさんのお知り合いと言う事だけで集められつつ有能な人材であります！

コナガレ ごめんね気が利かなくて。

きな粉 いやそれより、

アカゼ とりあえずデモのやり方をですね、各々調べて提示してきてください！

ふるえ うるさい人、この人？

虚無子 丑寅さん。

丑寅 え？

アカゼ と言うわけで以上第一回目の会議解散という事でしたが、ふるえさん知らない人叩い

ちゃだめだってえ！

【ここから見える景色】

ふるえ

2008年の秋、十一月は大きな月、パスポートもないし電話番号は分からないし、目印の噴水は取り壊された。それでも私達は。こうして出会ったんだ。私は風俗店で働いていた。蒲田の西口から五分くらい歩いたところに五番街という名のしみつたれた一角。けどそこはすっかり奪われてしまった。店同士の小競り合いとかおっぱい触り放題とかポッキリとかサラリーマンの疲れた皮膚の匂い、控室の女達の噂話、色々なものがごった返してた五番街も取り壊されると猫の額程もない只のケチ臭い土地でした。蒲田は最近、そんなのばっかだ。そんなの気持ち悪いんだ。反吐が出るんだ。

がおー、がおー、

虚無子
ふるえ

：壊してばっか。ねえ聞いてくれませんか、このマンションから見える景色が随分変わってしまった。あそこには雀荘があった。あそこにはどんかつ屋があった。あそこにはタバコ屋があったはずだ。それらはすべて更地と鉄骨と廃墟になった、昨日見た景色が、今日は違っている。今日見ているものは、きっと明日にはなくなっているんだ。だから私は、それを止めたくて…。ねえ知っていますか。この蒲田の地底には実は人が暮らしているのです。彼らは私たちに気づかれずにひっそりと、再開発の音を頭上に聞きながら暮らしている。彼らはネジ工場を経営していました。かつて小さな工場が盛んだった蒲田の、その残り香が彼らなのです。彼らも私と同じように今の状況に憂いていた。だから私、彼らにお願いをしました。蒲田を守る為に…

虚無子

知ってる？タイヤ公園、蒲田から川崎に行く電車から見えるおっきな公園。その公園の真ん中にはおっきな怪獣があって、

ふるえ

怪獣？

虚無子

そう！全身タイヤで出来たゴジラみたいな、二階建てくらいのでっかいやつ。そんでね、夜中の十二時になるとタイヤ公園の怪獣が鳴き始めるよ。がおーがおーって悲しそうに…

ふるえ

どうして。

虚無子

タイヤ公園のゴジラの足元には、子供の死体が埋まっているから…。

ふるえ

ふざけてる。

虚無子

ねえ教えて？それはだれ？だれ？

ふるえ

(リボンを掴む) 六郷さん！

【リボンの光】

場転／十二時の鐘がなる／螺旋工場／雪谷、蓮沼を叩く

チドリ

やつ。

蓮沼

いてえ…。

雪谷

叩きましたから。

蓮沼

血い出たよ。

雪谷

爪を伸ばしているんです。

蓮沼

どうして爪なんか伸ばすの。

雪谷

来週ネイルサロンに行こうと思ってます。

蓮沼 そうかい。なんで叩いたよ。

雪谷 蓮沼さんの発言は、不適切でした。

蓮沼 不適切だあ？

千ドリ ねえ蓮沼君。

蓮沼 千ドリさん、ちょっと。なー、言ってみろ雪谷。一体全体おれの発言のどこが具体的に不適切だった。

雪谷 自分で言ったんじゃないですか。

蓮沼 おれは雪谷みたく賢くねえかな、てめえで言った事もすぐ忘れちゃうんだよ。ほら言ってみろ。おれがいつ誰に猥褻な発言をしたか言ってみてちょうだいよって。

雪谷 猥褻って、やっぱり蓮沼さん分かってるじゃないですか。

蓮沼 いいから言えよブスが！つかお前手マンの一回や二回出来ねえならさっさとこんな工場やめちまえ！

雪谷 嘘つき！忘れてないじゃないですか！

蓮沼 うるせえ手マンさせろっつってんだろ！

千ドリ ねえ喧嘩やめよう？

六郷 (入り) おい！

雪・蓮 六郷さん！（以下それぞれの言い訳）

六郷 うるさいよ！

雪・蓮 (言い訳)

六郷 お姉ちゃん、こいつらどうしたの。

千ドリ あのね：

六郷 (一通り聞いて) …またか君ら！

雪谷 蓮沼さんが悪いんです。

千ドリ そういう話じゃないじゃない。

六郷 雪谷君さ、そんな爪伸ばしてて、作業できるの？

雪谷 それは。

六郷 効率悪くなってるよね？絶対。

蓮沼 ばーか。

千ドリ バカとか言わないの。

六郷 蓮沼くんもね、実際に手マン出来たとして、その手でネジ触ったらどうなると思ってるの。大事な商品錆びちゃうでしょ。酸性なんだから。

蓮沼 ちゃんと洗いますよ。

六郷 洗わないよ。君はちゃんとは洗わない。

蓮沼 …はい。

六郷 僕はね、君たちに真剣にこの仕事をして貰いたいと思ってる。結果を出してくれれば、他はどうだっていい。結果さえあれば、ネイルサロン？手マン？どんどんやんな。本当に本当にそう思ってる。…たった四人の、小さな工場なんだ…

雪谷 すいません。

六郷 …どうして。

蓮沼 …すいませんでした。

千ドリ はい、おしまーい、こわいのこここまでね？六郷もあんま怒らない、さー仕事仕事。

六郷 …。

チドリ、めそめそ。みんな。あわあわ。

六郷 今日からこの工場に楽しい楽しい役職を作ります！

チドリ わあ、すてき。

雪谷 役職？なんでですか。

六郷 質問は後ほど受け付けます。雪谷君、いや、雪谷監査。

雪谷 監査？監査って何？

六郷 だから質問は後ほど蓮沼総務部長が受け付けるから。

蓮沼 総務部長？やったー！

雪谷 六郷さん、きちんと説明してください！

六郷 おれは六郷ではない、今日からは六郷工場長だ…！

蓮沼 六郷さんそれ一番えらいんじゃねえのずりいなあ！

六郷 今から新体制のルールを発表する。

雪谷 ちよっと待ってください。

六郷 (紙を壁に貼る／書きながら) まず現在の状況確認だ。我々の設備はヘッダ一台、リ

ベット一台、以上だ。今まではどうしていた、総務部長。

月・火製造、水・木検品、金曜納品、土曜営業って寸法だろ。

さすがだな総務部長。十点あげよう！

いえー！

何ですか十点って。

しかしこの体制は非常に効率が悪い！よってこれからは完全分業制にする！

おう！

雪谷監査、返事は。

…はい。

よろしい。まずはスターティングメンバーの発表だ。

スターティングメンバーって元々四人しか居ないじゃないですか。

雪谷ちゃん、しっ！

うるせえよ監査あ！

なんでお前乗ってんだよ！

(書きながら) 蓮沼総務部長は月曜日から金曜日までがむしゃらにネジを作って貰う

よ。かつ必要資材の発注も担当だ。

よっしゃあ！

お姉ちゃんは今までどおり、アイドルとして、セルフプロデュースに励んでください。

はーい。

そして六郷工場長は営業と納品。雪谷監査は、我々の仕事っぷりを存分に見て貰う。

見てるだけですか？

そう。見て、何か色々言ってもらおう。監査だからね。あ、勿論見ながらお菓子を食べ

たりメールを打ったりしていいよ。何なら気の置けない友人達を招いてちよっとした

パーティーをしてくれても構わない。

それでは、はじめ！

ちよっと。…なんだ、あの兄弟。ねえ蓮沼さん…。

雪谷

蓮沼 (ばりばり仕事をしながら) 最近よお、どうだ。雪谷。
雪谷 え、あ、最近、髪型を変えまして、割と評判も良くてってなんですかこれ。
蓮沼 そうじゃねえだろ。おれだ。最近のおれどんな感じよ。監査から見ても。
雪谷 蓮沼さんですか？
六郷 言ってるやれ雪谷監査、
チドリ それが貴方の仕事！ですぞ！
雪谷 えー…。
蓮沼 いい感じじゃないか、おれ。
雪谷 そうですね。まあ、それなりに…。
六郷 そうだ、いいぞ！

電話が鳴る

蓮沼 感じないか。
雪谷 は？

蓮沼 粉骨砕身して働く男の姿に女として何か感じないか。

雪谷 蓮沼さん？

六郷 言ってるやれ。感じていると行ってやれ！監査として！

雪谷 感じています…。

蓮沼 よし、じゃあ手マンだ。

雪谷 どうしてそうなるの？

六郷 いいぞ！

雪谷 いいぞ！、仕事は！

六郷 僕はね、君たちにただ真剣にがむしゃらに仕事をして欲しいと思ってるんだよ。ほんと、それだけ！真剣にやっつてさえ居ればオールオーケーだ！監査、見てるだけじゃいけない。お菓子を食べなさいよ、メールを打ちなさいよ。

蓮沼 雪谷、働き尽くめのおれに足りねえのは性欲だよ、雪谷に発注かけてえなあ。超かけてえ。あ、いけね、ゴム手袋。酸性だからねっつって。ああたまんねえなルール。おれきっつい好きなんだよ。新ルール、新体制、やべえよ、勃ってきた。

雪谷 (逃げながら) チドリさん！

チドリ ねえ、地上の方から、なにか聞こえるわ…。

雪谷 (逃げながら) 六郷さん！

六郷 六郷ではない、もつとがむしゃらに工場長ー！と呼びたまえ。

雪谷 工場長ー！！電話ー！

六郷 しまった。はい、こちら有限会社蒲田ネジ製作所三人で力を合わせて頑張ってます！

六郷 あー、間違えた、電話を取る前に言ってしまった。(電話を取る) はいこちら…。ふるえちゃん。

紙飛行機が飛んでくる、雪谷キャッチ

【あの頃のリボン】

群集

あの頃おれらが考えてた事は大体いつも同じだった。今から七年前、高校の時、土曜日の部活の帰り、東口のジョナサンでご飯食べてたら結構遅くなって、勢いでコンビニでお酒を買ったりして、…誰かに酒を買わせた。…誰だ？

ごめん、遅くなって。はい（財布に財布を渡す）

財布 麻生さんおせえ。

ふるえ コンビニちよつと混んでて…。

きな粉 言い訳はいいよ。

ホテル きな粉、やめなよ。

財布 なんだおまえ。

…

ホテル ……何処で飲む。

ふるえ タイヤ公園でいいんじゃない。

きな粉 ちよつと寒くない。

ホテル 大丈夫だよ。…行こ。うちらは駅から川崎の方へひたすらまっすぐ歩いた。なんだか

んだ言っつちよつと寒くてうちらは足早に、基本三人で話しながら時々うちだけ麻生さんに話振ってあげてた。時々財布がそれを遮った。当時うちは財布と付き合っつて、財布は麻生さんが嫌いで、だからうちのそーいうの財布的にはあんま良くなかったんじゃないかと思う。財布が持つてるコンビニの袋がせわしなくシヤカシヤカと鳴っつて、うちは財布を怒らせたのを後悔して悲しくなっつたけど、財布の何が好きだったのか今となっつてはもう分からんない。

あー誰も居ないじゃん。よかつたね。

（くしゃみをする）

ふるえ 上着…貸してあげる。

ホテル 平気。

財布 ほら、何がいい。

きな粉 とか言いながら取っつてるし。

財布 おれの金だろ。乾杯。

群集 しばらく飲んでたら、誰かが言っつた。「てっぺんまで登っつてみよう」って。

間

群集 誰。…誰。（四人、カンペを探しながら、ロク々に）言っつてない、そんなの聞いてない。

だっつて、書いっつてない…。

ふるえ、途中でカンペを見るのをやめる

四人 デモ、デモンストレーション。集団で主張しながら移動する事。移動手段は徒歩が主

流。プラカードを掲げたり…時には国旗を燃やしたり…

ふるえ （食っつて）なんのためにするの。

三人 蒲田を守るために。（また読み出す）

ふるえ

あの時、てっぺんまで登ってみようと言ったのは誰だったか。そんな事を言った人が居ただろうか。そんな事があったのも忘れていた、そのくらいどうでもいいことだった。明日へ明日へと生きていくのが前へ進む事なら、あの頃の私の明日には目の前に何本も真っ白なりボンが伸びていて、私は気が付かない内必ずどれか一本を選んでいった。どれかを選ぶという事は、それ以外を選ばないという事だ……。選ばれなかった人生の中に、きつともっと素晴らしい事があった。蒲田がどんな姿を変えていく……

(飛び降りようとする)
どうして。

虚無子

虚無子。

ふるえ

どうしてわたしじゃだめなの。

ふるえ

なんのこと。

虚無子

選ばなかった人生を、みてみたくない？

ふるえ

戻らないと。

虚無子

わたしのながいけないの。

【蒲田西口の皆様】

ふるえ、壁を叩く／場転・蒲田西口前

アカゼ

蒲田西口の皆様、

全員

朝のお勤めご苦労様であります！

財布

蒲田を守りましょう！

きな粉

私達の蒲田を守りましょう！

アカゼ

守りたい人この指止まれー！すいません虚無子さん止まりませんでした。

虚無子

あははは！

アカゼ

おれマイナス五十点です！

虚無子

そしてバカポイント五十点！

アカゼ

グレイト！帳消しだー！

虚無子

よほーい。(アカゼと踊りだす)

ふるえ

つまらない。

コナガレ

でもまあ、これ、デモの辞書的な意味としては合ってるんじゃないか。

ふるえ

けど……

コナガレ

調べろって言われて一応調べて来たんだからいい友達じゃないの。

ふるえ

ハ、

コナガレ

ふるえはどうすればいいと思うの。デモ。

ふるえ

コナガレさんは。

コナガレ

うーん……

丑寅

音楽はどうですか。

コナガレ

え？

ホテル

皆さんに聞いて欲しい事があります。蒲田の再開発、古かった駅ビルは改装されてこんな大きな真っ黒な建物になって、西口から大森の方へまっすぐに続く商店街は、

次々と地上げされてなくなっていくます。五番街もすべて取り壊されてしまいました。うちのラブホテルも、立ち退きを要求され、もうその場所には、何にもありません。立ち退きを要求しているのは、電子工学院専門学校です。もうこれ以上蒲田を壊さないでください。…このままでなにがいけないのですか。

何かが落ちる音

虚無子 今なんか落ちる音がしたよ。何だろうね？ねえ？

ホテル ……行こう。

掘る／工場入り

きな粉 まあ、ミウラさん、これ、下から何かきこえねえか。

財布 下から、人の声がする。

きな粉 コナガレさんに言った方がいいっすか。

場転／工場

蓮沼 なんだこれ

雪谷 紙飛行機ですね。

蓮沼 泥だらけだ、それにこれ、血じゃねえか。

チドリ (紙飛行機を開いて)…蓮沼君。

蓮沼 なんすかア、

チドリ 発注掛けてちよ。

蓮沼 え、

六郷 遠心力制御シリンダーと、旋盤を二台だ。

雪谷 どうしたんですか！？

チドリ 汚れていてほとんど読めないけれど、これ、設計図。うちの工場へ誰かがお願いを飛

ばしてきたのよ、

六郷 (こすって) ほら、ここんどこ…

チドリ 麻生ふるえって書いてある

六郷 ほう…。

チドリ これを使えば地上に出れる。地上波に出れる。六郷。

六郷 ……待っていたぞふるえちゃん。はじめよう！(チドリ、六郷ハケ)

雪谷 なんの設計図なんでしょう。

蓮沼 さあねえ、おれにゃあ設計はわかんねえ…(こする)

雪谷 蓮沼さん、これ

蓮沼 !

雪谷 嘘。

掘る

蓮沼　なあ、ミウラさん、これ、下から何かきこえねえか。
雪谷　下から、人の声がする。

蓮沼　コナガレさんに言った方がいっすか。

雪谷　…ああ、

雪・蓮　コナガレさん！（ハケ）

何か落ちる音

虚無子　今なんか落ちた音がしたよ。何だろうね？ねえ？

ホテル　…行こう。

ホテル、ふるえを連れてハケ

【不幸者の証明】

財布　ホテル！なあ、今ホテルが麻生さんに連れてかれた。

きな粉　違うでしょ、

財布　違うよ、麻生さんが連れてったんだ、しかも無理やり…（追いかけてやる）

きな粉　行くの。

財布　…

きな粉　私は行かないよ、だってホテルが連れてったんだから！

財布　……そっか（ハケ）

きな粉　……なによ！（追いかける）

虚無子　ははは！ばかみたい、アカゼ、面白い？

アカゼ　あ……

虚無子　ん？

アカゼ　え…？

虚無子　気にしてんだ、

アカゼ　いや…

虚無子　ホテルが自分の学校の悪口言ったから。

アカゼ　そんなのおれには関係ないよ。

虚無子　ふるえのお店地上げしたのもあんたんとこだから。

アカゼ　それも、関係ないよ。

虚無子　あー、やさしいもんね、ふるえちゃんは。

アカゼ　……

虚無子　（アカゼをはたく）お前、泣くなよ。

アカゼ　……

虚無子　泣いて、ためになることがあんのか。

アカゼ　ない、ないけど、ふるえさんの事をね、好きになればなる程ね、悲しんだよな…。心が

さ…。

虚無子　でも泣く奴ってのは幸せだ。それだけで、不幸せだという証明になる。証明出来れば、それだけで充分不幸者として全うしてる。でも泣く奴の大概の不幸は、肝心の涙を見せる相手を間違えてるって事さ。アカゼお前、あたしになんか泣いたって、しょうがないじゃないの。

コナガレ　丑寅さんだっけ。

丑寅　ああ。

コナガレ　コナガレだ、よろしく。

丑寅　どうも。

コナガレ　サックス、吹いてんだってね。

丑寅　一応。

コナガレ　じゃあ一曲付き合ってくれよ。蒲田行進曲だ。

コナガレ、蒲田行進曲を歌う

コナガレ

♪虹の都　光の港　キネマの天地

花の姿　春の匂い　あふるる処

カメラの眼に映る　仮染めの恋にさえ

青春もゆる　生命はおどる　キネマの天地

虚無子　（途中から）へったくそ。

アカゼ　兄貴：歌とか歌うんだ。

虚無子　それで？

アカゼ　知らなかった…。兄貴は、そういうんじゃないと思ってた…。

虚無子　知ってたら、どうした？

アカゼ　…

虚無子　帰ったら？

アカゼ、ハケ

コナガレ　だめだ。

丑寅　音程がまるでない。

コナガレ　曲はいいね。

丑寅　ああ。

コナガレ　虹の都…。

丑寅　ああ。

コナガレ　でも、おれね、蒲田で虹を見た事がないな。

丑寅　…

コナガレ　丑寅さんは。

丑寅　さあ。

コナガレ　丑寅さん、おれの秘密を聞いてくれないか。

丑寅　なに…。

コナガレ、耳打ち

丑寅 それは、どういう。

コナガレ そのまんなの意味さ。

丑寅 ……そうか。

コナガレ なあ、また会おう。また歌を歌おう。

丑寅 じゃあ、おれの秘密も、聞いて欲しい。

コナガレ いいよ。

丑寅 タイヤ公園の怪獣の足元に、子供の死体が埋まっているんだ。

コナガレ 死体？

丑寅 おれはね、その子供の名前を知っているんだよ。

丑寅、コナガレに耳打ちをする

丑寅 いい靴だね

コナガレ え？

丑寅 いい靴だ

コナガレ、振り返ったときにリボンが絡まる

【ひとごろしのリボン】

虚・丑 踏んだの、リボン。

コナガレ なに…。

群集 歌を歌おう。群衆と、怪獣と、選ばれなかった人生の為に。

コナガレ 選ばれなかった人生…

虚無子 うそと、ほんと。後悔と間違い。誰も知らない事、誰にも言わない秘密…。

群集 歌おう。選ばれなかった人生の為に。

コナガレ なんだ、

虚無子 あたしは、選ばれなかった。

コナガレ 誰に。

虚無子 みーんなよ。みんなが私を見捨てたの。

何かが落ちる音

虚無子 ほら、早くしないとどんどん落ちるよ。蒲田のタイヤ公園の怪獣の足元に、子供の死体が埋まっているよー！

何かが落ちる音

虚無子 (泣く)

コナガレ きみは…。

蒲田駅／コナガレ

コナガレ 四番線に目蒲線到着いたします。白線の内側まで下がってお待ち下さい。

虚無子がふらふらと線路上に降りようとする

コナガレ 下がって。ちょっと！（虚無子を止める）

虚無子 離して、

コナガレ 危ないじゃないか。

虚無子 離して、お願い、離して！

コナガレ （手を離す）

虚無子、ひかれる

コナガレ 違う、そんなつもりじゃ…。

コナガレ 蒲田は目蒲線じゃ、かならずおしまいの駅だ、電車は速度をゆるめて、ゆっくりとここに辿り着く、…こんなおしまいの速度じゃ、誰も死ねやしない。

虚無子 （立ち上がりコナガレを突き飛ばす） どうして…どうして手を離れたの（ハケ）

コナガレ なんだ、

ふるえ （入り） 駅員さん、あの、

コナガレ はい、なに。

ふるえ いま、私とおなじ制服着た女の子来ませんでした？眼鏡で、髪は…

コナガレ え？

ふるえ 友達が、いえ、駅員さんに言ってもしょうがないんですけど、ごめんなさい…。

コナガレ その子は…

発車のベル

コナガレ 四番線より、目蒲線、目黒行きが発車致します。次は矢口渡に止まります…。

大きな音／六郷、駅員として入り

コナガレ なんだ、

六郷 （駅員として）コナガレ、人身だ。京浜東北で。

ふるえ まさか、高校生ですか、

六（駅） あ？どうして。行って来い。

コナガレ はい。

ふるえ あなたですか、

コナガレ ……

ふるえ あなたが虚無子の背を押したんですか。

六郷

歌おう。群集の歌。選ばれなかった人生の歌。真っ白の、捨て置かれた、リボンの歌。それは、そうだったらよかったと言う誰かの後悔、もしくはみんなが忘れてしまった事、誰ひとりとして口にしない真実の歌…

リボン／ふるえ・六郷が引っ張る／コナガレハケ

【はたらきものの手】

ふるえ

(入り) ねー、六郷さん。

六郷

どうした。

ふるえ

ふふ…

六郷

そろそろ姉さんが帰ってくるよ。

ふるえ

六郷さんの手、おっきいね。

六郷

汚いでしょ。

ふるえ

働いてる人の手、好き。…なんでも作れるんでしょう？

六郷

まあ、

ふるえ

六郷さん、私、したいな

六郷

きみ、彼氏いるんだろ？アカゼ君だっけ？

チドリ

ごめんねトイレ混んで…、あれ、私、いけないかな。

ふるえ

どうして？

チドリ

ふるえちゃん、どうして私じゃダメなの。

ふるえ

(リボンをひっぱる／チドリハケる) もしもし、六郷さん。

六郷

ああ、

ふるえ

聞こえる？

六郷

ああ。

ふるえ

そっちは、

六郷

夜だ。

ふるえ

…

六郷

まあ、…いつもそうだ。

ふるえ

…

六郷

どうした…、

ふるえ

ねえ、本当をお願いしてもいい？

六郷

ああ。出来ると思う。

ふるえ

かっこいい。…六郷さん、私と、しようか。

六郷

きみ、

ふるえ

そっちにも風俗ってあるの。わたしそれやってんのよ。うまいよ。…ごめん、(リボンを手放す／六郷ハケ)

【待ち合わせの打ち合わせ】

アカゼ
ふるえ
……
アカゼ 電子工学院……
ふるえ ああ、そのこと。
アカゼ (泣く)
ふるえ なあ、お前、やめろよ。
アカゼ やめてもいいけどね、ただね、悲しいんだよな。
ふるえ アカゼ、しようか。
声 (ホテルの母として) ホテルー。
ホテル なに、お母さん。
声 402のお客さんチェックアウトしたから掃除してきて頂戴。
ホテル はーい。

ホテルとアカゼ・ふるえがすれ違う

ホテル 麻生さん……
ふるえ ……
ホテル ホテル、高校で同じ文芸部だったホテル、覚えてない？
ふるえ 覚えてる。
ホテル なんか、変わったね。
ふるえ そう？
ホテル 高校の時よりも、きれい。
ふるえ それなに(モップ)
ホテル あ、これ、このラブホテルうちの店なの。ねえ、麻生さん、今402から出てきたの？
ふるえ そうだけど？
アカゼ (泣いている)ふるえさん、
ふるえ ごめん、もういく。
ホテル こっちこそ引き止めてごめん。
ふるえ ねえ、(メモに走り書き/ホテルに渡す)これ。
ホテル なに？
ふるえ 私の携帯番号、高校の時とは変わってるから。
ホテル ありがとう。
ふるえ 再来週の土曜日の正午に、工学院図書館の噴水の前にきて。財布ときな粉も連れてきて。
ホテル どうして。
アカゼ おれがいけないんだろ。
ふるえ また今度。(ふるえ・アカゼハケ)
ホテル (部屋に駆け込む) 凄……やるね……。麻生さん生理だったじゃん……。(ゴミ箱をあさる/ナプキンを取り出して)へへ……。びったびた……。麻生さん……。なんだか、昔より、ねーえ、超かっこいいよ。おいしいよお……。麻生さん。

【うめる】

財布 (入り) なにしてんだ。
ホテル ごめん、こわくて。
きな粉 ごちやごちや言っていないで早く埋めんだよ。
ホテル (何かを埋める)
財布 これで、ばれやしない。てっぺんまで登ろう。
きな粉 乾杯。

三人、乾杯／丑寅入り

丑寅 なあ、飛んでみろ。
ホテル だれ。

公園のホームレスだよ…。後ろの植え込みんどこ、段ボールがみえんだろ…。

きな粉 あいつ、何持ってるの。

サックスだ…。ホームレスなのに、どうして…。

財布 ほっとけ、あいつは頭がおかしいんだ。

飛び降りてみるよ。

きな粉 どうして？

出来ないのか。

丑寅 出来るよ。

…。

出来るって言うてるだろう！

きな粉

俺らがあの頃考えてた事は大体いつも同じだった。部活の帰り、ノリで公園で飲んで、誰かに声を掛けられて怪獣のてっぺんに登った。イチョウの木の間隙に月が見えて、

下にホームレスが居たよ。植え込みの後ろの土がいつも湿ったようにそこに、段ボールの小屋を建てて暮らしてるホームレス、そいつがダンボールの中からのそのそと這いずって来た。

飛び降りろよ、

丑寅

下から俺達に向かってそう叫んできた。

群集

飛んでみせてくれよ！

丑寅

飛べなかった。二階建てくらいあんだ。怪獣から見下ろす夜の公園は、暗くて深くて

群集

底がない…。おれ達は、何も出来ずにしばらく立ち尽くした。

財布

ほっとけ、あいつは頭がおかしいんだ。

群集

おれ達は誰からともなく、また座り込んで、

丑寅

なあ、夜の底を見せてくれよ！

群集

気の抜け始めた缶チューハイを、ずるずると…

上から人形が落ちてくる／丑寅笑う・ホテル絶叫・ハケ

きな粉

私時々思うんだ、あれは、飛び降りろってのは、死ねって意味だったんじゃないかなあ。別にいつ死んでもいいくらい世の中クソだったのに、いざ死ねと言われると足がすくんでしまった。あの頃のわたしは、いつも何かをしなくちゃと思ってた。そし

ていつかは何かが出来んかと思ってたよ。だって世界に私は私一人だったから、私の世界で私は特別だった。私の為に飛び切りの何かを、用意されているんだって、思っていたよ。ねえ、いま、私は、特別にも主役にもなれずに、かといって、クソにも外道にもならずここにいるよ。こんなはずじゃなかったって毎晩毎晩思っているんだよ。財布。

【言葉にしても】

財布

……

きな粉

財布！

財布

……

きな粉

やっと見つけた。

財布

来ないんじゃないの。

きな粉

…ホテルは、見つからないよ。

財布

なんで。

きな粉

あんただって分かってんじゃない、

財布

え？

きな粉

ホテルは、あんた…違ったじゃんか。

財布

ごめん、理解できない。

きな粉

理解できないの、それともしたくないだけなの。

財布

……

きな粉

黙っちゃって。ばかみたい。

財布

…

きな粉

ホテルは昔から麻生さんのこと好きなんだよ。あんたはホテルと付き合ってたけど、

でもそれとこれとはホテルの中では別だし、あんたは全然騙されてたわけじゃないけ

どただつまり違うんだよあんたは。

……

財布

こうやって、言葉にすればいいの。

財布

ごめん、

きな粉

だめなの。

財布

…ごめん。

きな粉

財布貸して。ジュース、買ってきてあげるから。

財布

(財布を渡す)

きな粉

なにがいい。

財布

…桃ジュース。

きな粉

はいはい。

【ふたりのリボン】

ホテル・ふるえ、入り

ふるえ
ホテル
ただの工事現場。

ふるえ

ホテル
うちのホテルがあった場所。あの看板見て…。

ふるえ
蒲田キャンパス再開発計画、新校舎建設予定地。

ホテル
そう。

ふるえ

ホテル
うちと、あと、となりのコインランドリーと駐車場を潰したの、そしたらね、ここに

は十二階建ての、おっきな校舎が建つ。

…ひどい。

ホテル
ねえ中に、入ってみよう。

危ないよ

ホテル
大丈夫。（中に入る）

…：ホテル、辛くないの。

ホテル
見て、おっきなクレーン車。あ、あの柱は、何だろね、太くて、おっきいの、

多分、校舎の支柱になるんだよ。

気持ちが悪いね。

…：

ホテル
うちまだとっといてるよ、麻生さんの、血い付いたあれ。

ホテル…？

凄いやがするの、すごく（近寄る）。

…：

ホテル
どうしてうちじゃだめなの。

…：なにを言っているの。

うちね、ホテルの屋上から見える景色がすきだった、蒲田駅から池上線へまっすぐに伸びる、バーボン通りの夕暮れ、オレンジ色の空に張り巡らされる電線の真っ黒い影、その隙間にぼつぼつと灯り始める店のネオン…

…：

ホテル
工学院のひとつたちは何度も何度もうちにきた、最初のうち、両親は取り合いもしなかった。でも…。いつか、

…：

パパとママは、たくさんのお金に目がくらんでしまった。大切なものばかりが、この手から零れ落ちてゆく、それでも。

…：

奪っても・奪われてもまだこの街は ないものだらけの光の港…（ふるえの首に手をか

ける）

ふるえ
（振り払う）

なにがそんなに怖いのか。

ふるえ

ホテル
触られるのが？それとも思い出すことが…？

ふるえ

…：

ホテル
うちねえ、リボンを踏んだの。

リボン。

ホテル
麻生さんは、どうしてまだ虚無子と一緒に居るの。

ふるえ
友達だから。

ホテル
友達なんかじゃ、なかったのよ…。ねえ、こーゆーの、思い出さない…？（目にキスを

する）

なにを？

ホテル
触られて、奪われたくなくて、それで逃げた。

ふるえ
逃げてなんかない。

ホテル
リボンを踏んだの。麻生さんのリボン…。

誰かに触れられるたびに、肌があわ立つような感触がして、自分の腕が首筋が足元が、自分のものではないかのようにさざ波立つんだ、この体は私のものであるはずなのに、触れられるたびに私の体中が誰かに取り戻されようとして叫び始める、誰かと体を重ねるたびに思う、これはきつと、元々私のもんじゃないんだと…。ああ、でも少なくとも、これは女に触られるためにあるんじゃない、だから触らないで、私に触らないで！

アカゼ
（入り）お姉さん、随分若いっすね。

ホテル
そう？

ふるえ
…そう？

アカゼ
おれと変わんなそうだ。

ホテル
十七。

ふるえ
十七。

アカゼ
一個上だ、高校は。

ホテル
やめちゃった、

アカゼ
どうして。

ふるえ
逃げたの。

ホテル
（笑う）ほら。

ふるえ
ごめん、私にも、よくわからないの。昔のことだから。

アカゼ
あのおれ、風俗とか、初めてなんです、五番街のことも、おれ東口だから知らなくて、友達に賭けで負けて、そんで来て…だから、よくわかんなくて。

ふるえ
分かんなくていいの。（抱きつく）

アカゼ
お姉さん。

ふるえ
あなた、名前は？

アカゼ
アカゼ。

ふるえ
アカゼ君、最後までしようか。

アカゼ
でも、この店って、

ふるえ
誰でもいいわけじゃないの、でもこれは、私のものなんだ。

アカゼ
（よける）

ふるえ
（人形とする）

アカゼ
なんだ、やっぱり誰でもいいんじゃないか。（ハケ）

ふるえ
私のものを、ちゃんと返して欲しいといっているだけ…。なのに、体が違うといっている、ざわついて、落ちていく、割れてしまう、

ホテル　でもあの時、受け入れてもいいかって、ちょっと思ったでしょ？だから私のことも慰めてよ麻生さん。

ふるえ　あの時って。

ホテル　あの時だよ、どうして思い出さないの、ばかなんじゃないの…！

ふるえ　（人形に）だれ、

ホテル　そうだよ、その子…！

ふるえ　誰なの。

コナガレ　もしもし聞こえるか…。

チドリ　うん、

コナガレ　そっちは、まあいつも夜か。

チドリ　ねえ、聞こえた？これが群集の歌。誰も知らない本当の事。

コナガレ　聞こえたよ。…：本当によく聞こえた。

チドリ　だれも知らないのよ。でも必ずどこかにあるの。

コナガレ　おれは、虚無子を殺したかもしれない。

チドリ　そうだったかもしれない。でも、そうじゃなかったかもしれない。

コナガレ　知りたくなかった…！うたが…。

チドリ　…：

コナガレ　分からないことは、分からないままでいいんだ。

チドリ　…：

コナガレ　全部知らない。知ったこっちゃない！

チドリ　…：

コナガレ　ほっといてくれ、おれはこの街のことなんてどうだっていいんだ

チドリ　ごめんなさい。

コナガレ　…：

チドリ　ごめんなさい。

コナガレ　ごめん、どうかしてる。

チドリ　地上には何があるの？

コナガレ　虹があるよ。月が出てる。

チドリ　きれい。

コナガレ　出してやる。連れていってやる。

チドリ　…：

コナガレ　おれ、今地下鉄を作ってるんだ。聞こえないか。

チドリ　まだよ…。

ホテル　ねえ、てっぺんにのぼってみよう？

ふるえ　何処の。

ホテル　この校舎のてっぺん…。ねえ、上から見下ろす景色は、どんなにきれいなんだろうね、

バーボン通りもあるかなあ、東口のモアイは見えるかなあ…。誰かがこの景色を欲し

がって、だからうちらが奪われた。一回くらい見たっていいじゃんか、あのね、うち

あのこのこと、別に嫌いじゃなかった、

あの子ってだれなの。

ホテル　ただ好きな理由もなかったんだもん、理由がないから傷付けて、そして奪った。麻生

さんあの時、いつも苦しそうな顔してたね、高校の時。でも一番不幸なのは自分じゃ

ないから・って、その顔が、凄く好きだった。泣かしたくてしようがなかった。うちだけが、麻生さんを泣かすの。ねえ、不幸者になってみてよ、もう充分そうなんだよ。待って、

のぼってくる。(ハケ)

ホテル！

(声) なんだ、なんにも見えないじゃないか。

ホテル！！！！

ふるえ、人形に。

ふるえ

ホテル…。違う、ホテルじゃない、誰、ねえ、貴方はだれ…。

【誰にも言わない秘密】

場転／ふるえの家

ふるえ

コナガレさん。

コナガレ

え。

ふるえ

どうしたんですか。

コナガレ

いや…

ふるえ

ぼーっとして。

コナガレ

君んちか…。

ふるえ

ええ。

コナガレ

…

ふるえ

…

コナガレ

ふるえは、いつ…

ふるえ

私も、さっきです。

コナガレ

…ホテルちゃんは、

ふるえ

…

コナガレ

…歌、

ふるえ

え、

コナガレ

歌ったか、おれ。

ふるえ

歌ったんですか？

コナガレ

…いや、

ふるえ

…

コナガレ

そうか…。歌ったな…。そんで、

ふるえ

…

コナガレ

(人形に気がつく)…リボンを踏んだんだ。…群集の歌を聞いてしまった。

ふるえ

…は？

コナガレ

ふるえ。

コナガレ、ふるえにキスをする

ふるえ ……ちよつと。

コナガレ ……

ふるえ ……

コナガレ おれ、なんか悪いことした？

ふるえ した。

コナガレ ……そ。

ふるえ ……

コナガレ まさかね、

ふるえ ……

コナガレ ……ハハ、

ふるえ ……

コナガレ まさか。

ふるえ ……

コナガレ 上手く行くといいね。デモ。

ふるえ コナガレさんは…

コナガレ ……

ふるえ ……

コナガレ なに。

ふるえ ……いいえ。

コナガレ ……信じてくれないとおもうけど…

ふるえ ……

コナガレ 蒲田の地底には人が住んでんだ。地底には、ネジ工場があつて、

ふるえ 六郷さん、雪谷さん、蓮沼さん、チドリさん、

コナガレ ……どうして。

ふるえ 私、六郷さんをお願いをしました。花を、咲かせてほしいって、

コナガレ 花？

ふるえ 蒲田を、花で、いっぱいにして、そうして、私は……、

コナガレ ……

ふるえ 蒲田を守るのです。

揺れる

コナガレ 揺れてるな。

ふるえ ……

コナガレ 近頃、よく揺れる…。

ふるえ 下のほうだ。

コナガレ ……

ふるえ なにか、あつたんでしょうか。

【なかったこと】

二人、地面に耳を当てて／場転・工場

雪谷 (携帯を見て) うっそ。

蓮沼 なんだ、

雪谷 ……

蓮沼 嫌いなんだよ。

雪谷 (メールを打つ)

蓮沼 なに見てんだ。

雪谷 はは、

蓮沼 言え。

雪谷 ……

蓮沼 言え！ (殴る)

雪谷 ……

蓮沼 なんだよ、

雪谷 ……

蓮沼 泣くのか、

雪谷 だって、怖いんです。

蓮沼 ……

雪谷 この紙飛行機に書いてあったこと！

蓮沼 偶然ってこともあるんじゃない、

雪谷 偶然なんかじゃありません！

蓮沼 く、くるなー！

雪谷 不安なんです！

蓮沼 その顔をやめろ！

雪谷 ひどい！

六郷 なにしてんだ。

雪谷 六郷さん！これみてください、

六郷 設計図か、

雪谷 上のほうの汚れを落としたら、私たちのことが書いてあったんです、

蓮沼 名前と、さっき決まったばかりの役職も。

六郷 なんだって。

チドリ (入り) どうしたの。

六郷 お姉ちゃん・これ

チドリ ……

雪谷 これ麻生ふるえって人が書いたんですよね、どうして私たち以上に私達の事を知って

虚無子 いるんですか？変ですよ！

チドリ (入り・人形に) ふるえちゃん、起きて。

蓮沼 だれ、

チドリ どうしたんですか、

チドリ 女の子がいるの、そこに、

雪谷 え…どこに…

虚無子 聞いて欲しいことがあるの。蒲田の地底に、人が住んでいるんだよ。
チドリ だれなの。

虚無子 ネジ工場があつてね、四人働いているの、六郷さん蓮沼さん雪谷さんチドリさん。う
ん、そうなの。

チドリ やめて、

六郷 誰も居ないじゃないか。

虚・チ いったもふるえちゃんが私を迎えにきてくれて、六郷土手から蒲田駅のバスに乗るで
しょう、それから池上線で蒲田駅、蓮沼駅、千鳥町駅、そして雪谷にある高校につく
でしょう、そんなときに、思いついたの、たのしいでしょう…みて…ここに、

チドリ 設計図。

虚無子 聞いて。

チドリ倒れる

雪谷 チドリさん！

チドリ やめて、もうこれ以上聞かせないで、

六郷 どうしたんだ

蓮沼 とりあえず奥に運びましょう。

チドリ ここがなくなるのはいや、

雪谷 しっかり。（工場、ハケ）

虚無子 ねえ、聞こえる、

【あつたこと】

ふるえ 入り

虚無子 ねえ、ふるえちゃん、聞いている？

ふるえ ごめん、ちょっと、眠ってた。

虚無子 部活の後だから疲れているのよ。

ふるえ なんだか、永い夢を みていたみたい

虚無子 あのね…明日、部の会誌のメ切でしょう…私面白い話・ようやく思いついたの、
どんな。

虚無子 ネジ工場のお話…。六郷さんは工場長、チドリさんは六郷さんのお姉さん、雪谷さん
と蓮沼さんって人が働いていて、全部で四人、

ふるえ それ、うちの通学で通る場所の名前じゃないか。

虚無子 ……いいの、いいの…。それでね、私も出てくるの、それで、ネジ工場の人たちにお願
いをするの。

ふるえ ……

虚無子 蒲田を……

ふるえ 危ないよ。

虚無子 続き、読んでおいてください。(紙飛行機を渡す)
ふるえ 紙飛行機?
虚無子 バイバイ。

電車の音

ふるえ (人形に) 虚無子、
虚無子 ふるえちゃん、授業は終わったよ。

ふるえ 虚無子。

虚無子 眠っていたの。

ふるえ なんだか、永い夢を 見ていたみたい

虚無子 ふるえちゃん、わたしは、ふるえちゃんが好き。

ふるえ 私も好きだよ。

虚無子 そういうんじゃないの、もっと、

ふるえ ……

虚無子 ふるえちゃんの一番が私じゃなきゃなの、ふるえちゃんが学校で、他の人と話すの
がやなの。他の人にふるえちゃんが見られるのがやなの、ずっとこのままでいたい。

ふるえ ……どうしたの。

虚無子 ふるえちゃん、

ふるえ (笑う)

虚無子 ふるえちゃん。

ふるえ ねえ…変だよ…

虚無子 どうして。どうしてわたしじゃだめなの(首を絞める)

ふるえ やめて。

虚無子 ……

ふるえ さわらないで。

虚無子 わたしものには なってくれないのですか。

ふるえ ……

虚無子 だったらもうなんにも要らない。(ハケ)

ふるえ 虚無子!

コナガレ (入り・虚無子にぶつかる) なんだ…、

ふるえ すいません駅員さん、あの、

コナガレ はい、なに。

ふるえ いま、私と同じ制服着た女の子来ませんでした。眼鏡で、髪は…

コナガレ え?

ふるえ 友達をなくしてしまうかもしれない。

コナガレ ……

ふるえ 私が…触らないでと言ったから…

蓮沼 (入り) コナガレ、

コナガレ ミウラさん。

蓮沼 人身だ、京浜東北で。

ふるえ まさか、高校生ですか。

蓮沼 ……そうだ。
ふるえ ……
蓮沼 コナガレ、山手線行きの乗客は全部こっちに振り替えた、忙しくなるぞ、来い（ハケ）
コナガレ はい（ハケ際に）君が殺したんじゃないか。
ふるえ 虚無子…（人形に）どうして。あれ、…リボン…。

【真白き夜の底では月にも手が届く】

財布 なにしてんだ。

ふるえ ごめん、怖くて、

ホテル ごちゃごちゃ言わないで、

ふるえ ……

ホテル 埋めて。

ふるえ （埋める）

きな粉 これでばれやしないから、

ふるえ 待って。誰なの。

財布 だれって、

ふるえ 誰を埋めたの、

ホテル （笑う）

ふるえ 私達は誰を埋めたの！

財布 誰も。

ふるえ 誰でもない人なんて何処にも居ないんだ。

きな粉 誰でもないよ、

ふるえ 誰でもないわけ、ないじゃないか！！

ホテル 選ばなかったんだから、

財布 どうでもいいことなんだろう…

ホテル 帰ろう。

ふるえ 待って。本当になくしてしまう、

ホテル 帰ろう！（手を引いて）

ふるえ お願ひ、待って、（リボンの端をつかむ）

虚無子 （入り）ごめん、遅くなって、

ふるえ ……虚無子。

財布 虚無子、おっせえ、

虚無子 コンビニちよっと混んでて…

きな粉 言い訳はいいよ。

ふるえ 財布、

財布 なんだおまえ。

ホテル ねー何処で飲む？

財布 タイヤ公園でいいんじゃないか。

ふるえ 上着…貸してあげる。

虚無子 へいき。

ふるえ
虚無子
「……どうして？」

ふるえ
「ごめんなさい。」

きな粉
「あー誰も居ないじゃん。よかったね。」

財布
「ほら、何がいい。」

ホテル
「とか言いながら取ってるし。」

財布
「おれの金だろ。乾杯！」

虚無子
「ねえ、怪獣のてっぺんまで登ってみよう。」

ふるえ
「……」

虚無子
「すごく高いから、きつと月にも手が届くよ……」

財布
「は、」

虚無子
「財布は怖いよね……」

財布
「ばか言ってるじゃねえよ（のぼる）」

ホテル
「相手にすることないよ、」

財布
「いいから、お前らも来いよ！」

登りきる

財布
「じゃあ改めて乾杯。」

虚無子
「（人形で）」「そんなこと言わないで下さい！」「雪谷、愛してるよ」「やめてください」「どうして」「気持ちももないのにそんなこといわないでください」

きな粉
「何いってんの。」

虚無子
「気持ちなら、あるよ」「何処にあるって言うんですか」「手マンさせろよ」

ふるえ
「こないだ部活で本作ったでしょ、虚無子の考えたお話だよ。」

ホテル
「はあ？」

虚無子
「「気持ちあるから手マンさせろって言って……」「やっ」「いてえ……」「叩きましたから」「血い出たよ」「爪を伸ばしてるんです」（以下、続ける）」

きな粉
「なにそれ、それでおままごとなんだ、」

ホテル
「気持ち悪い。」

ふるえ
「虚無子、今はやめよう。」

虚無子
「違うの、私の中にいるの、勝手に喋るの、虚無子がやってるんじゃないのよ。」

きな粉
「やだこいつ、本物なんじゃない。」

財布
「ほっとけ。あいつは頭がおかしいんだ。」

ホテル
「はは、」

丑寅
「（入り）なあ、飛んでみる。」

ホテル
「だれ。」

財布
「公園のホームレスだよ……。後ろの植え込みんどこ、段ボールがみえんだろ……」

きな粉
「あいつ、何持ってるの。」

ホテル
「サックスだ……。ホームレスなのに、どうして……」

丑寅
「飛び降りてみるよ。夜の底を見せてくれよ！」

虚無子立ち上がる

虚無子 おじさん、今日は、月がきれい。

丑寅 ああ、いい夜だ。

虚無子 酔っ払ってるの…？

丑寅 さあ。

虚無子 あのね、ネジ工場の人たちに、お願いをするんだ（リボン束ねる）

ふるえ ……

虚無子 蒲田を、壊して欲しいって、そうしたら全部このままになる。

ふるえ ……

虚無子 ……ねえ、ふるえちゃん、

ふるえ ……

虚無子 どうして。

ふるえ ……

虚無子 どうしてわたしじゃだめなの

ふるえ 触らないで

虚無子、落ちかける

ふるえ 虚無子！（手を伸ばす）

虚無子 ……

ふるえ なあ、手、出せよ、

虚無子 ……

ふるえ それじゃ届かない……

虚無子 ……ねえ、月が、とつてもきれい（手を伸ばす）

ふるえ 出せ！！！！！！

手が触れる・ふるえが手を離す・虚無子落ちる・リボンが引き剥がされる

ふるえ あ。

全員 落ちた。 ……だれが。

ふるえ だれ、……だれ。 ……わたしなの？……ちがうの。あなたは、それはだれ、いや、

丑寅 やめて、われる、わたしが、われてしまう……

埋めてしまえば。

ふるえ ……

丑寅 それでなんにもなくなる、

全員 全部、

埋める・虚無子の人形をほどき、布をかぶせる

丑寅 これでばれやしない……

4人 （財布・きな粉・ホテル・丑寅）乾杯。

ふるえ ……だれ。

虚無子 …だあれ…
ふ・虚 貴方は誰なの。
虚無子 私は、あなた、私は、みんな、私は、
ふ・虚 なんでもない…捨て置かれた、真っ白の…
ふるえ ねえ、

4人 (笑う)

ふるえ (リボンが絡まる) 苦しいの。

虚無子 (笑う) 苦しいの!!

ふるえ ほどいて…

虚無子 (笑う)

ふるえ 絡まって息が出来ないの…!

4人 ほどこうか、全部。

ふるえ そうして何が残るの…?

虚無子 なんにも…

4人、リボンをほどく

【選ばれた彼女の部屋】

場転／ふるえの家／【彼女の部屋】と同じ／ホテルは居ない

入って、狭いけど。

ここ、

ふるえさんと俺のマンション。ねーふるえさん、よしって言うてくんなきやおれ入れ

ないよ。

ふるえ

アカゼ

ふるえ

アカゼ

ふるえ

アカゼ

ふるえ

アカゼ

ふるえ

アカゼ

ふるえ

アカゼ

ふるえ

アカゼ

ふるえ

…:…:待って…。

えーそりゃないよ、ねーあにきー。

ねえ虚無子がいない。アカゼ。

やったー。(入ろうとする)

よしって言うてない。虚無子がいない。

え…:…:?

…:…:

虚無子って?

…:…:

おれ、知らないよ

どうして。

どうしてって、だれのこと?

誰じゃない、知らないはずないだろう!どこやった!

ふるえさん?

どこやったんだ!!

コナガレ
七年前、まだお互いの名前も知らないおれ達がホームで出会い、そうして、おれが虚無子の背を押した。

ふるえ
違う。

コナガレ
おれだ。

ふるえ
私が、高校の帰り道のホームから、違う、怪獣のてっぺんから…

コナガレ
…

ふるえ
誰が殺したの、あのこは、何処にいるの。

コナガレ
誰も知らない…何処にも居ないかもしれない…

ふるえ
…

コナガレ
それでも。

ふるえ
…

コナガレ
大丈夫。

ふるえ
…わたしがみんなを集めたのは、

きな粉
なんなの。

ふるえ
デモをやるから。

きな粉
デモ？

ふるえ
私は蒲田を守りたかった…。

間

ふるえ
けれど、私は、言葉を、デモをやるための言葉を持っていなかった、それは私の中に言葉が足りないのか、それとも本当は蒲田を守りたいなんて、それは嘘なのかもしれない…。私は、なにかを言わなくちゃと思ってた、誰にでもいいから、なんでもいいから、今言葉にしなけりや失ってしまう何かを守る為に。だからみんなを集めたんだ。でもそれは、きつと蒲田の街そのものじゃない、きつと、いや、必ずそうなんだ。

私が本当に守りたかったものは、伝えたいものは、デモで、一言で言ってしまうような、一言で伝わってしまうような名前のあるものじゃない、街が変わることによって私の中に生まれてしまった私の中の不整合を…違う、それも違う、この街の景色が変わっていく…私のすべてはその景色の中にあるのに、変わってしまったらなにかを思い出せなくなるのが、忘れてしまう事を許さない景色が、崩れていく事が…、

コナガレ
ふるえ、公園に行こう。…：怪獣の足元に、…：子供の死体が埋まってる。

ふるえ
…

コナガレ
もしそれが本当なら、そこにあるはずだ。

ふるえ
じゃあ、

コナガレ
行こう。…もう夜だ。

アカゼ
待ってよ。…ふるえさん。

ふるえ
アカゼ。

ふるえ
やっぱりふるえさんは恨んでいたんだ。

アカゼ
そんなこと、

おれじゃない、ふるえさんは、ふるえさん自身を恨んでいたんだ。おれはそのためだっ

ふるえ
たんだ。

…

アカゼ　ふるえさん、百点あげるから、上海に行こう。
ふるえ　パスポートを持ってないの。私は何処にもいけない。

アカゼ　ねえ、上海行こうよ…。
ふるえ　ごめんなさい（ハケ）

アカゼ　兄貴、あの人、はじめておれとあったときに、誰でもいいわけじゃないって言ったんだ…。本当にそういったんだ…。ふるえさんは嘘つきだ…。

コナガレ　嘘つきじゃないさ。もう嘘なんかじゃないよ。（ハケ）

きな粉

どうして、どうして全部が、私のすぐ隣をすり抜けていくの。こんなはずじゃなかった、私はもっと、…よくなくちゃだめ…。なんであんたしか居ないの。どっか行つてよ！

揺れる

財布　なんだよ、今の。

きな粉

…

財布　おれは、難しい事は良く分からないけど、壊れても、またそこからなにかが、生まれるんじゃないかな、人が暮らしてて、何にもなくなるなんて事はないんだ。だからきな粉だって、ほかになんか、もっとあるよ。

きな粉

なんでだよ。どうしてあんたに、

ホテル

見て。

財布

ホテル、

ホテル

蒲田に花が咲くよ。

ア・キ

花なんてくだらない。

財布

おい、

ホテル

そう、くだらない。全部くだらない。麻生さん、そこから何が見えますか。たくさんある、でも全部うちのものじゃないよ。ばかだよ、麻生さんは、与えられて、いい気になって、いざ返す時にぐずったりして。ねえ麻生さん、そこには何が見えますか。

【なにも届かない結果として】

場転／工場／激しい音／六郷が何かを作っている／チドリ泣いている

雪谷

やめてください、六郷さん！！

六郷

（作っている）

雪谷

六郷さん！

六郷

やめられるか、これが！

蓮沼

工場長！

六郷

なんだね、

蓮沼

チドリさんの言っている事が本当なら、これを書いた人物が、おれたちを作った事になる、大変なことだ、でもそれで貴方が…！！貴方が取り乱しちゃいけねえだろ！

六郷 分かってるさ！でも僕はね、親父からここを継いでからずっと戦ってきたんだ、ろくに学校も行かなかった親父が、血の滲む様な努力をして育てた工場を僕が守ってきたんだ、君たちが入ってきてきて本当に助かったと思っている、そして今のこの結果があるんだ、

チドリ 六郷……

六郷 お姉ちゃん、辛い事も苦しい事も、流す涙もないほどに貧しかった事もあったなあ、それでもいつか結果が出れば、笑える日がくればそれでいいじゃないかと……。だから僕は君たちに言ってきたじゃないか、毎日毎日繰り返し言ってきたじゃないか、結果ささえあれば、なんだっていいんだと……。その結果が、コレだって言うんだな、蓮沼くん。それは、なんなんですか。

蓮沼 この紙飛行機は蒲田を壊すための設計図だ。蒲田駅の下にある明治時代に作られた下水管を知っているか。それは大きな地震には耐えられない……

蓮沼 じゃあ、

六郷 これが完成したら、蒲田は沈むんだよ、僕らの頭上から、おっこってくるんだ、この真っ暗な、夜の底に……。そして落ちた先には、なんにもないんだ……消えたくありません。

六郷 ハ……

雪谷 消えたくありません！！

六郷 蒲田を、夢の町にしようか……。僕らが消えてしまう前に……

雪谷 そんなこと言わないで下さい！

蓮沼 雪谷、愛してるよ。

雪谷 やめてください。

蓮沼 どうして。

雪谷 気持ちもないのにそんなこといわないでください

蓮沼 気持ちなら、あるよ。

雪谷 何処にあるって言うんですか。

蓮沼 手マンさせろよ。……気持ちあるから手マンさせろって言って……（叩かれる）

チドリ やっ。

蓮沼 いてえ……

血谷 叩きましたから。

蓮沼 血い出たよ

雪谷 爪を伸ばしてるんです。

蓮沼 どうして爪なんか伸ばすの。

雪谷 来週ネイルサロンに行こうと……

チドリ ……いつ行くの。

雪谷 え？

チドリ 来週って、いつ行くの。

雪谷 来週です……

チドリ どうして今日行かないの、どうしていつも来週って言うの……？

雪谷 どうして……

蓮沼 雪谷、お前の爪よ、いつまで経っても伸びねんだな……

雪谷 （泣く／蓮沼にすぎる）

六郷 …… 六郷土手から、蒲田駅のバスに乗る…、池上線で蓮沼、千鳥町…雪谷にある高校につく
蓮沼 爪が伸びなきや、お前は何処にもいけねんだ…。なあ…。
六郷 壊すことも・守ることも出来ないんだ…。
チドリ 電車が走っている、蒲田の下を走っている、私達の上を走っている。コナガレさんとミ
ウラさんが作った、地下鉄の音、ねえコナガレさん、私たちを乗せてくれませんか、
(手を伸ばす) ここはなんでも届かない、夜の底だから…。

【捨て置かれた名前】

場転・夜中／タイヤ公園

虚無子 丑寅さん。

丑寅 虚無子さん。

虚無子 さっきはごめんね、

丑寅 さっき？ ……ああ。そんなこともあったかもしれない。

虚無子 痛かったでしょう。

丑寅 いや、割と、慣れている。…おじさんは、みんなの嫌われ者だから。

虚無子 くさいからですか。

丑寅 ああ…。

虚無子 鳩だ(追いかけて遊ぶ)

丑寅 きみは、この近くに住んでるの。

虚無子 ……うん。

丑寅 いくつなの。

虚無子 ……二十、五…。

丑寅 親御さんは。

虚無子 知らない。

丑寅 虚無子さん、

虚無子 ねえ丑寅さん、鳩を捕まえてみて！

丑寅 私はねこういうのをたくさん集めてるんだ、空き缶とか、ゴミとか、こういう、捨て
られたものを、捨て置かれたものを、毎日毎日…。

虚無子 つまんないねえ…

丑寅 (笑う) つまんないねえ。

虚無子 やめてよ。

丑寅 いいじゃないかア、別に、減るもんじゃあないしね…。

虚無子 ……

丑寅 私の家は、あれだよ。その植え込みの段ボールだ、おじさんはこの公園で生まれた
んだよ。母はその時死んだと聞いた。サックスは、私の母の持ち物だった。だから、
サックスが好きとか嫌いとかの話じゃないんだな…。

虚無子 そうなんだ。

丑寅
そこで寝て、昼頃起きて、小銭がある時は食パンを一斤買って、鳩に餌をやって、煙草を吸ってねえ……。公園にいる大人たちはみんな私のことなんか見えてないみたいだ。子供は時々私を指差す。石を投げられる事もある。酔っ払った若者に殴られる事もある。でも私はなんにもしないよ。ただ俯いて、笑って、そうやって通り過ぎていく人間たちの靴の数を数えている……。

虚無子
丑寅さん。
昔ね、怪獣のてっぺんから、人がおちるのを見たことがあるよ。

虚無子
丑寅
……
そういう時って、全部がスローモーションになるって聞いた事があるけど、あれはデマだね、本当に……、
やだ……

虚無子
丑寅
あっという間だった。あ・と思ったら、もう落ちていた……、落ちて、ぶつかって、それで、その話は終わりだ。私が落ちろと言ったんだ、そうしたら、本当に落ちた……。

虚無子
丑寅
……（帰ろうとする）
蒲田の怪獣の足元には、子供の死体が埋まっている……。蒲田の子供達に親が吹き込む噂話だ……。でもね、本当なんだよ……。そして私は、その子供の名前を知っているんだ。

虚無子
丑寅
……
教えてあげるよ。

虚無子
丑寅
……
その子の名前を。

虚無子
丑寅
やめて、
なあ……。

虚無子
やめてよ！！

【その骨をわたしのものだとして悲しむ事】

ふるえ
（入り）虚無子。

虚無子
ふるえちゃん。

ふるえ
虚無子……。もう夜だよ。

コナガレ
（入り）丑寅さん、

丑寅
……ああ。

ふるえ
虚無子、迎えに来たよ、

虚無子
ありがとう。

ふるえ
あんたがいつまで経っても、帰ってこないから……

虚無子
ふるえちゃん……。

掘る

ふるえ
苦しくてもいい。息が出来なくなっただっていい。私が割れてしまってもいい。だって、選ばれなかった人生の中で、私は、貴方だったかもしれないんだから。ねえ、答えてよ！

ふるえ
コナガレさん……。

……

ふるえ
設計図です。

ふるえ
人形です……。

ふるえ
見て……

ふるえ
……骨です。

間

ふ・虚
虚無子

ふ・虚
……違う。

ふ・虚
ふるえちゃん……

コ・丑
泣いてはいけない。

コ・丑
頼ってはいけない。

コ・丑
甘えてはいけない。

虚無子、首を振る

ふるえ
だれ……？

虚無子
分からないよ……。

ふるえ
それでも、私は、この骨を、私のものだととして、悲しまなければならぬ……。

全員
ねえ 誰が 誰を 殺したのでしょうか

十二時の鐘がなる

丑寅
夜だ。

虚無子
ねえ、聞こえる？

怪獣の声

丑寅 靴を数えていた、ただ、ひとつ・ひとつ…通り過ぎていくものを、ただ見ていた…
ふるえ 私は、私を殺した。彼女に手を伸ばしたその先に、確かに大きな黄色い月を見た。
丑寅 ふいにその靴を、呼び止めてみよう…。
コナガレ ……なくしたものは、速度でしかなく…。
ふるえ 突然の力で、私達はただ、ちぎれた…。

【群集と怪獣と選ばれなかった人生の為の歌】

ふるえ あの頃ぼくらが考えてた事は大体いつも同じだった。
群衆 あの頃ぼくらが考えてた事は大体いつも同じだった。

群衆 欲しかったものがあつた、たくさんではなかつた、ほんの少し、それを欲しがつただけ、けれどそれは奪われて、そして僕らの指の間からはすべてが零れ落ちていった。それらは蒲田の街に、とめどなく零れたはずなのに、駅前にも、西口の商店街にも、さびれたラーメン屋の玄関にも、何処にも落ちては居なかつた。僕らはいつもどおり笑いながら、適当に悩みながら、知らない振りをして、でもそれでも、なくしたものの行方を夢に見ていた。

ふるえ 私は骨を見つけました。小さな子供の、ところどころ折れ曲がってしまった骨です。
群衆 きつと僕らが選ばなかつた人生の中で、殺してしまつた骨だ。

ふるえ 公園に行つたんだ。仲間と一緒に公園に行つた。

群衆 真夜中の紺色の空の裾には街灯が遠くぼつぼつ灯つて、もたれかかつたベンチの真裏の家からは夕食の匂い、公園の隅っこには大きなイチョウの木、その木の枝の間に月が昇つていた、濃い黄色で出来た、十一月の大きな月だ。それを見上げたおれたちは何となく、この景色を忘れないようにしようと思つた。

虚無子 「ねえ、怪獣のてっぺんまで登ってみよう」

ふるえ 私とコナガレさんは怪獣のてっぺんに登りました。七年ぶりに見た景色でした。

のぼる

丑寅 なに見える…。

ふるえ ……なんにも。何も見えません。

群衆 タイヤの怪獣の頭から見えたのは、公園の近くの屋根ばかりだった。

ふるえ 私は、私が逃げてきたものの形を、なくしはじめていました。

群衆 自動車教習所。ボーリング場、ユザワヤのビル、蒲田駅、駅ビルの屋上の遊園地、私があの時ここから見た景色は、あるはずなのに、どこにもありませんでした。怪獣

ふるえ のてっぺんはすべてを見渡せるほどに高くはなかつたのです。ちぎれた私の体が、返

群衆 せと悲鳴をあげ、夜の底は、どこまでもその速度を上げていきあす。それでも、それでも、夜中になつてもいつまでも消えない明かり

ふるえ

京浜東北線の、発車ベルが鳴りました。こんなに真夜中なのに、電車は、何本も何本も線路を通っていきました。ここからなにも見えなくても、たとえすべてが壊れても、この街は、まだここにあるのだと…。

丑寅

今日はよく電車が通る…。なあ、下からも何か聞こえるな…。

虚無子

電車が出たの、工場の人たちが、乗っているの。

ふるえ

コナガレさん、息が出来ない。

コナガレ

…

ふるえ

私を、助けてくれませんか。

コナガレ

怪獣が、泣いている…。

丑寅

違うよ。

コナガレ

…怪獣なんかじゃないんだ…。

コナガレ、ふるえの涙をぬぐう

コナガレ

ほら、花が、咲いたよ。

・完・